

○19番（山口昌宏君）〔登壇〕

おはようございます。

実はきのう、東川登で町民運動会をいたしまして、ひょっとしたら雨の降るとやかろうかとずっと心配しておりましたけれども、私の頭を見てですね、朝になったら、きょうは絶対できるというような天気になりました。それこそ、小さな子どもから老人まで1日中、楽しく運動会ができました。

それでは、ただいまから私の一般質問をさせていただきます。

まず最初に、入れ替えまして、市長への質問ということで、先にさせていただきたいと思っておりますけれども、まず第1点目は、今から約7年前に樋渡市長誕生いたしましたけれども、そのあと、1期目。通常は1期目は4年となっておりますけれども、うちの市長の場合、いかんせん、2回やりまして、そして次のときにもう1回やりまして、4年間で3回という市長選挙経験をされました。そういう中で、市長の2回目をやったところまでの市長の政治姿勢といいますか、市長がやられてこられた仕事、あるいはやってみて、あれ？と思ったこと、等々が恐らくあられるかと思っておりますけれども、その辺についてまず、お尋ねをさせていただきます。

○議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

おはようございます。

きょうは、多くの傍聴者の方もお見えですので、まあ、いつも丁寧に答弁してはおりますけれども、きょうからも丁寧に答弁をしたいと思っております。

2回目の選挙というのは病院のところまで――。

〔19番「そういうことですね、はい」〕

病院のところまで。はい。私は、皆さんご存じのとおり、今から7年ちょっと前に市長選に志を立てて、多くの皆さんのご支持をいただきまして、市長に就任をさせていただきました。

ちょうど、きのうの本山建設の息子さん、私は同級生でありますけれども、彼が現職に闘って、これは絶対だめだぞと。もちろん、よそ者ですよ。よそ者で、神奈川県松田町という町で、私も応援にまいりましたけど、必死になって選挙戦を闘われていました。その光景が本当にやっぱりタブってですね、本当に涙がとまらなかつたんですけれども。そのときに、彼も実はきのう投開票で、現職に圧勝をしています。そういった中で、私としては、まあ、もちろんベテランの市長さんに打ち勝ったということもあって、しかももっと大事なことは、ちょうど北方町、山内町の合併の初代の市長だということで、非常に重い重圧が肩や背中にのしかかってきたことを覚えております。

そして、意図しなかったことでありますけれども、市民病院の民間移譲という日本で初め

ての病院の移譲という本格的な移行に伴いまして、さまざまなことがありました。あのときこがんこと言わんぎよかったな、ということもたくさんやっぱり反省点としてありますし、今でも人間的には未熟だと思っておりますけども、さらに当時は未熟でありましたので、今思えば、もう少しこういうふうにしとけばよかったという反省点も多々、実はございます。

そういった中で、議会とともに仕事ができる。特に病院は、黒岩幸生特別委員長はじめとして、議会の強いお力添えがあって、これが成し遂げられたものと本当に感謝しておりますし、病院の民間移譲ということで、もともと15億円の赤字を抱えていたのが、今、毎年7,500万円——、8,500万円かな、の税金をいただくまで、そして、多くの患者様が自分の命を救われたということを私どもにおっしゃっていただくということで、本当にあのとき厳しい決断をして良かったなということを思っております。幸いにして今、医師会の皆さんとも関係修復に努めております。

医療面ではありますけれども、やはり、その——問題を1期目の途中でありましたけれども、問題に目をそらすことなく、問題に逃げることなく、そして問題にきちんと目を向けて、そこでああいう決断ができたということを思っておりますし、それは市民の皆さんたちには本当に感謝をしたいと思っております。そういった中で病院のリコールに伴う選挙までは、病院一色だったということが、今申し上げられることであります。

○議長（杉原豊喜君）

19番山口昌宏議員

○19番（山口昌宏君）〔登壇〕

今、病院の話が出ましたけれども、先日、ある先生とお会いする機会がありまして、その先生いわく、あの病院問題、市民病院を民間移譲するときに、あの異常さは何やったとやらかと。自分たちがしたことに対してですよ。自分たちが民間に移譲するのに反対ということで表明をしながらあそこまでやった理由は、自分たちにも掴めん。あれは何やったとやらか。いや、本当にそう言われた。

ということはですね、皆さん方、この間の一般質問の中に、松尾初秋議員の質問の中にありましたけれども、新武雄病院ができて、逆に民間の病院は良かったとやなかろうか。例えば極端な言い方すれば、5時まで医療しよったとを、7時までやったと。あるいは、送り迎え、老人の方の送り迎えをしながら、その診療をされている。

これはまさに、新武雄病院ができたがために、自分たちの自衛手段と言いますか、自分たちの医療の手段として、そういうふうになされたんではないか。ということは、市民の方にとっては良かったんじゃないかと。そういうふうにして、いいほうに解釈をしておりますけれども。

まず、病院の前に武雄市長がやったのは、「佐賀のがばいばあちゃん」ですね。その「佐賀のがばいばあちゃん」のロケ地を誘致したということでですね、えっと、どこやったとで

すかね。秋田県かどっかに行ったときにですね、それこそなんとか湖っちって、じゅうさーじゅうなんとか湖って、湖がずっと——小さな湖があって、そこをずっと登って行くところですね。一番奥の湖で旅行者の方と会ったんですけれども。どっからですか、て。佐賀弁やけんですね、いずれにしても。どっからですか、って聞かれた。いや、あの実は「佐賀のがばいばあちゃん」のロケ地の武雄です、て。「ああ、今そこですもんね」と。市長が有名かってやなかとですよ。「佐賀のがばいばあちゃん」のロケを誘致した、武雄が有名になった。ということはですね、それだけ市長が、まあ、4年間で武雄の、まず名前を売った。

なんでも一緒。食べ物でも、まんじゅうでも、それから、いろんな食べ物でも、いろんな商品でも一緒。まず、名前を売る。そして買っていただくというのが、基本的な姿勢だと思うんですね。あそこの料理はおいしかけん、あそこに泊りに行こうかと。というのと一緒。そういうふうなことを考えたときに、市長の4年間というのは、成功だったかなと。

ただ、市長の上手なところはですね、アドバルーンを上げる。アドバルーンは上げるけれども、上げてあれっと思った後はですね、いつの間にかもう、プシュッとこう、針で潰される。皆さん方ご存じのとおり、ありゃ、いつの間になくなっとなつた。おかしかったにゃあ、って思いながら、もうそれを忘れるんですね。75日したら忘れるんですから。

そういう中で、2期目。2期目としてですね、市長は2期目も、今、約3年を経過しましたけれども、その3年の中でですね、まだまだ、いっぱい武雄市にはやらなければいけないことも含めて、今まで2期目の3年間をやってきたことについてのですね、反省なり思いなりをお尋ねします。

○議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

実は、武雄市は、物すごくこう、派手なね、スタンドプレーで、こう、名が売れているという誤解をされている方もいらっしゃるんですけど。きのうちちょっと、よくよく調べてみたら、うちの職員がすごいんですね。こういうことがありました。

これは今の時期なんですけれども、ある集まりに私が行ったときに、今、企業誘致をしかけているところの社長さんが私のところにお見えになって、お宅の池田修一君はすごいんですね、と。もう本当に彼がね、自分のところで雇いたいぐらいです、といったこと。

きのう、F B良品が——東急ハンズで福岡で出て、物すごく今売れているんですけれども、きのう、私も参りました。そのときに、ちょうどこう、帰るときに、うちの森一也が家族で来て、「あんた何しにきたと？」って聞いたんですよ。福岡の博多駅のところで。そしたらですね、いや、もう同僚の職員が頑張りようけんが、家族を連れてF B良品を買いに来ました、っていうことを一言言うんですね。

そういうふうに、これはこの2人だけに留まらず、本当に、例えばいのしし課だったり、

お結び課だったり、さまざまな目に見えない地味な、一言で言えば、地味な仕事に物すごく、実は、やっていて、これは本当に職員に感謝をしたいということを思っています。

で、2期目は、確かに図書館が、きのうも物すごいことになっていました。ですが、こういうふうに、絶対これは無理だろうと言われたことも、実はこれ成し遂げることができたのは、今きちんと考えれば、それは職員の本当にたゆまない努力と、やっぱりその、力があってこそだと、本当に感謝をしています。

首長としてのモデルは、私は松本和夫町長であります。あの方はやっぱりこう、自分のことを捨て、それで郷里のために本当に一生懸命やられていたということで、しかも職員を物すごく大切にされていたので、そういう私には、いろんな、さまざまなお手本とする、例えば首長さんだったり、皆さんもそうですけども、議員の先生方であったり、本当に嬉しく思っています。

そういった中で、ちょっと長くなりましたけれども、2期目の総括としては、やはり私は、武雄というのは知られんといかんぞと、外に対しては、知られないといけないということで、それは一定の効果がもう出始めてきています。移住者も増えてきていますし、それも、取りも直さず、地味な、本来ならば、なかなかこう、陽の当たらないようなそういう仕事を職員がきちんとやっていると。それと、それを市民の、多くの市民の皆さんたちがその後押しをしてくださっているということで、ただただ、感謝を申し上げる次第であります。

○議長（杉原豊喜君）

19 番山口昌宏議員

○19 番（山口昌宏君）〔登壇〕

先々週やったとですかね。東京のあれは——伊勢丹やったですか。伊勢丹の地下で、武雄市から行って、職員さんがレモングラスを売っておられたんですけれども。それで、場所がわからんやったもんですから、電話をしたとです。「場所はどこや」って。「私は今、武雄の市役所におります」と言っただけ。本人もおるもんと行って行ったら、1番若い女の子だけ東京においてですね、お偉いさんたちは全部武雄に帰ってきて、もう武雄で仕事をされていました。そのくらいに忙しかったのかなと思ってから。

ま、それでもですね、1番若い子だったんですけれども、平成生まれですから。それでもですね、何の違和感もなくその場でちゃんと、商売ってというか、仕事をついていきますかね、してるんですよ。これってやっぱり、先輩諸氏の指導もさることながら、やっぱり市長に対して、やっぱり何とか手伝いばせんばいかなと、いう気持ちの中でやっていたのかなと、いうふうに見てきましたけれども、果たしてそれが本当かどうかは、本人に聞いてみなければわからないことだと思っております。

そういう中でですね、市長は、7年間という市長の責務というんですか、やってこられて、何と言ったら、良いんでしょうか。良いのか悪いのかというような状況の中で、まず武雄の

名前をあげた。市民病院を民間移譲した。図書館をリニューアルして、指定管理とした。

きのう、図書館に夕方行った。夕方っていうよりも、まあ、8時ぐらいだったのかな。その中で、さっきくしくも市長が言いましたけれども、武雄に移り住みたい。移り住みたいけれども、ちょっと小児科のなかですもんねっていう話があったんですよ。新武雄病院は、小児科できんとやろかって。それはやっぱり、私じゃ何とも言えんけんが、次、今度機会があったら、市長に話ばしとくねということで、帰ってきましたけれども、市長も恐らく答えは出しきらないと思いますけれども、残されたあと半年ぐらいの市長の任期がありますけれども、そういう中ですね、今後市長が、残された任期を含めて、あと、のちのち、どういふふうなやり方で、自分の政治姿勢というですか、そういうふうな、あとの方向性があれば示していただきたいと思います。

○議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

この7年間で学んだことは、やはりあらゆることをするにしても、それは人なりだということ、本当に痛感をしています。

そういった中で、私はこの残りの任期と、それからの4年につきまして、私は、教育、教育に命をかけていきたいと思っています。ただ単に、教育の中身をね、受験にあわせるとかそういうんじゃなくて、今、本当に若い10代の後半だとか20代の皆さんとかと話をしていると、なかなか、生きる気力がない、と言う方々もいらっしゃいます。あるいは、何をしたいのかわからない、という人たちもいます。そういった中で、社会が大きく生まれ変わっている中で、私は子どもたちの教育、特に小学校の教育に対しては、生き抜く力。生き抜く力を、ぜひね、私としては、これ、僭越な言い方ですけど、授けていきたいと思っています。私は教育、なかんずくそれが、子どもたちが多くこの武雄の地に集まるような魅力ある教育をぜひしていきたいということを思っています。

その中でICT。今度、教育監を任命しますけれども、ICT教育と過疎地の対策、そして、私自身が引きこもりでしたので、そういう引きこもりの子がまた学校に復帰する、あるいは、学校に復帰できなくても、授業と同じように魅力的な授業が受けられるようにする、あるいは、人間関係をきちんと保てるようにする、という意味から、これは、いじめも内包していますけれども、そういう、こう、不登校だからといって、それがだめなんじゃなくて、やっぱりこう、前向きにやっついこうよというような施策もあわせて展開をしていきたいと思っていますので、もし多くの市民の皆さんたちのご支持がいただければ、3期目につきましては、教育に力をつくして参りたいと思っていますし、これが今度の新しい3期目の武雄市政の大きな切り札になっていくと思っていますので、これはぜひ議会の皆さん、市民の皆さんのお力添えを賜りながら、そういう魅力ある、あるものを活かして、あるものを活かし

て、既存の制度の中で、そういう特区とかじゃなくて、制度の中で私たちとしては、武雄市民病院であるとか、図書館であるとか、さまざまな今あるものを活かして、魅力ある展開をしていきます。

この実績を踏まえて、教育に新しい息吹を入れて、それが、地域おこし、まちづくりにつながるように、私自身、誠心誠意展開をして参りたいと思います。

併せて、福祉、非常に大切です。やっぱり、こう、住みやすいということを考えた場合に、だんだん消費税が——恐らく、高くなると思います。皆さんの任期中、私たちの任期中に高くなると思います。そういった中で、これからいろいろ手立ては考えますけれども、そういう中でも武雄市は住みやすいよね、と言ってくださる、住み続けたいと言って下さるようなまちづくりを、ぜひ、微力でありますけど、粉骨砕身やってまいりたいと思います。

いずれにいたしましても、1期目、2期目、さまざまな実績もありますけど、問題、課題もあります。ですので、それを丁寧に、一つ一つ、議会の皆さん、市民の皆さんたちと胸襟を開いて、話し合いながら、本当に武雄市は前進しているよね、と言ってくださるようなまちづくりをぜひ、していきたいと思います。以上です。

○議長（杉原豊喜君）

19番山口昌宏議員

○19番（山口昌宏君）〔登壇〕

ということは、市長は3期目は出馬をしますと、いうことですね。

市長が誕生してからですね、「がばいばあちゃん」であり、病院であり、図書館であり、本当に与党、野党、本当にいろいろけんけんがくがくやってきました。やってきた中でですね、端から見たらどうかはわかりませんが、私は、武雄の議会というのは、ここまでやった他の自治体の議会は恐らくないんじゃないかというぐらいに頑張ってきたんだらうかと、我々は思っておりますけれども、そういう中で市長はめげずとか、聞かずとか、そういう中で、ここまでやってこられたっていうのは、本当に市民の皆さんとか議会の皆さんたちがですね、助けたり助けられたり、脅したり脅されたりというんですか、そういうような面も含めていろいろあったからこそ、ここまでいけたのかなということ。

次に向けての市長のですね、政治姿勢は、ただいまお伺いしましたけれども、何となく——何となくちゅうたらおかしいですけど、2点目にですね、教育という問題を出しておりましたので、教育問題について進みたいと思います。

教育問題、学校教育の今後のあり方と学校内の整備についてっていうて出しとったですかね。でしょ？ということですね、さっき一番始めに話をしましたけれども、きのう運動会をしました。そいぎですね、運動会をしたけれども、もう小学校だけでは、運動会できないんですよ。

それは何かって。小学校、東川登の——例えば、東川登の小学校をあげれば、今1年生～

6年生まで105人。そして、その中でですね、面白いというよりも、ちょっと厳しい状況なんですけれども、地区が5つに分かれているんですね、東川登地区は。北永野、南永野、内田、袴野、宇土手っていうやつで、5つに分かれているんですよ。そして、北永野っていう地区はですね、中学生が1人、小学生が1人しかいない。そういうことですね、もう運動会ができない。そういう地区対抗リレーどがんしようかって、よそから借りてくるわけにも——、1人か2人やったらよそから借りることもできるんですよ。しかし、もう小学校だけでの地区対抗リレーなんてのは、全くできないんですね。

教育長さん、子どもさんを作ってくださいとは言いませんけれども、そういうふうな状況なんです。そういう中で、学校の教育をしていく過程の中で、地域と、学校が連携をしなければ、もう今後の教育はやっていけないのではないかということをおもうんですね。その点について、まず、教育長さんにお尋ねをしたいと思います。

○議長（杉原豊喜君）

浦郷教育長

○浦郷教育長〔登壇〕

お話にありましたように、児童生徒数の減少で、学校単独では運動会が開きにくいという、次々にプログラムがやってくると、というような状況がございます。

そういう中で、小学校では4校においてはですね、合同の運動会を開催してもらってる。ただ、春先にですね、記録会みたいなのを簡単にされる学校もございます。そういう面からの合同の運動会と、また別の意味で、今の子どもたちを育てるうえで、やっぱり家庭地域との連携が必要だということで、多くても合同で開こうという両方の流れがあるようでございます。

○議長（杉原豊喜君）

19番山口昌宏議員

○19番（山口昌宏君）〔登壇〕

はい。きのうもちょっと話しをしてたんですけども、運動会のときに。各学校に、地元出身の先生がですね、地元出身の先生がいてくれたら、その地域は本当に助かるんじゃないかなと。私も常々思ってるんですね。

例えば樋渡啓祐君は、保育園中退。

〔樋渡市長「はい」〕

小学校もそこそこ。

〔樋渡市長「はい」〕

そういう中で、もしなんか問題点があったときに、問題点があったときにはですよ、例えば、樋渡君方のお父さんは2人とも、お父さんお母さんは県庁に行きよるさいもんのと、あそこのじいちゃん、農協に行きよるさいもんのと、そこまでわかるわけでしょうが。そうい

う家庭環境ちゅうのがある程度わかれば、その対処の仕方があると思うわけですね。

ただ、極端な言い方をすれば唐津から先生がきて、公務員になったと。その唐津の先生は、唐津と、まあ、極端な言い方——市長の例えですけれども、川上は気候風土も全く違うわけですね。そういう中で、その唐津の先生がどれだけ頑張ってみても、やっぱりその風土には馴染みきらん、というのが大体あるわけでしょうが。また次は4年かすれば転勤をするわけですから。そういう中でね、教育長としてですよ、常々お願いをしてるんですけども、そういうふうな先生の配置というのはどのように考えておられるのかをお尋ねしていきたいと思えますけど。

○議長（杉原豊喜君）

浦郷教育長

○浦郷教育長〔登壇〕

基本的に、順番と申しますか、交替でもですね、地元の先生がいてほしいなという基本的な考えを持っております。それは今おっしゃった理由等々でございます。ただ、地元の先生というのがずっといらっしゃるかどうかはまたわかりませんし、今のお話のようなことを考えますと、より市内の先生あるいはご出身がこの校区とか、そういう先生をお願いできないかというような形で対応しているところでございます。

現在、校区内に住んでおられる先生がいられる学校が7校ほどございます。16校中7校ほどございます。ただ、市内にお住まいの先生となりますと、小学校では約50%、中学校では30%ぐらい。どうしても中学校は教科で動くので、非常に動きが大きくなっているという状況でございます。

そういうことで、ご指摘の点は毎年、人事関係の話のときには出る話でございまして、今後も私としても先ほど申したような考えで沿っていききたいというふうに思っております。

○議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

この話は知事や県の教育長とも話がありまして、以前ちょっと話がありましたね。で、私がちょっと申し上げたのは、任期をもう少し伸ばしてほしいということをやったんですね。

私もですね、今、答弁をしましたが、もう今8年目なんですよ。8年目でようやくですね、やっぱり市民の皆さんの痛みとか苦しみとかその、悲しみっていうのが自分のこととしてわかるように、やっぱり最初無理ですもんね、2、3年は。この方はどういう思いで、いいよんさっとやろうかって。しかし何度も何度もやっぱあうんですよ。もう以心伝心ですもんね。もう顔見たらですね、やあ、きょうはキミエさんのちょっと顔色が悪かたあとかなですね、そういうことなんですよ。

やっぱりそのためには、一定長くね、任期を担保する、特にトップはそうです。ですので、

これもちよっと合わせて、やっぱ言うてこうということを思っています。ですので、先ほど議員からも御指摘がありましたように、なんていうんですかね、地元の方を、っていうことは絶対大事、それとね、もう1つ、僕がちょっと腑に落ちないのは、あれなんですね。結構ですね、例えば唐津なら唐津、佐賀なら佐賀。そこから通いよんさあわけですよ。それはだめですよ。それはね、教育ってそんな甘いもんじゃないですよ。24時間365日、これは私も一緒です、トップですので。何かあったときっていうのは、それはやっぱり有事のときはね、トップなんですよ。ですのでそれはね、やっぱりね、小学校の近くのね、例えば東川登小学校やったら、山口昌宏議員に、家のなかぎんとですよ、家賃貸してやってください。……（発言する者あり）はい、ですので、そういうことで、ぜひね、それをした上で、もし遠くからお越しの方々が、例えば5年、7年、8年いたらね、それは地元の人になりますよ。ですので、もう1つ大事なのは、校長先生って物すごく体力いるんですよ。自分もわかります。トップなのでわかる。そうなったときにね、もう少し、校長タイプの人っていうのは、40代後半からね、僕は登用すべきだと思いますよ。そんなね、名誉職じゃありません、今。あくまでも校長先生っていうのは、教育という意味での経営者になってきます。

ですので、もう少しちよっと着任の年次を早めて、少しね、ちよっと教育界って年功序列が結構やっぱきついんですよ。ですので少しね、そこをちよっと緩めてあげるということもあわせて、県には言うていこうということを思っていますので、御意向に、極力浴うように、私たちも教育委員会と力を合わせてやっていきたいなど、このように思っております。

○議長（杉原豊喜君）

19番山口昌宏議員

○19番（山口昌宏君）〔登壇〕

今、東川登の話が出ておりますが。東川登の今の校長先生っていうのは、松尾先生っていう校長先生で、相知のほうからお見えなんですね。この先生の真面目なこと、真面目なこと。もう朝7時、7時過ぎには、学校にお見えじゃないですかね。そして夜は夜で、この人いつ眠んさるか、というくらいに頑張っておられます。そいけん、やせとんさあです。まあ、それはそれとして、校長先生の話が出ましたけれども、ここで1つ、不思議でならんのが、1つ教育長さんあるんですよ。校長先生の話が今出ましたから、ちよっとお尋ねですけれども。御船が丘小学校のですね、校長室と職員室。この離れは、あれは何ですか。

それと、もう1点。校長室にしても職員室にしても父兄にしても、校長室の中をですよ、通っていかんばトイレに行かれんとですよ。……（発言する者あり）子どもたちが行く玄関口を閉めたら、あれは絶対、校長室の中、職員室の中を通っていかんば、トイレ行かれんやろう。ああいうふうな、作りがあつていいもんか。ちよっとあれは、不思議でならんんですけど、そのへん、教育長さんどうですかね。

○議長（杉原豊喜君）

浦郷教育長

○浦郷教育長〔登壇〕

建設当時のいきさつはわかりませんが、ちょっと1回つくってしまうとですね、そういう状況になるわけで。今、校舎建設、進めながら、その辺まで含めてですね、本当に慎重にしないといけないことを考えておるわけです。プラス面もあったかも知れませんが、ちょっと厳しいなという……（「確かにね。」と呼ぶ者あり）終わります。

○議長（杉原豊喜君）

19番山口昌宏議員

○19番（山口昌宏君）〔登壇〕

いや、本当にあれ、もうプラス面は全くゼロです。

大体ですよ、校長先生というのは、家族でいえばお父さんですよ。父ちゃん、今ちょっと大変ばい、というて行くのが校長先生なんですよ。職員室と校長室がですね、あれだけ離れとったら父ちゃん大変ばいって、子どもたちはどっちから来ているんですか。職員室通って父ちゃん大変ばいって自分のところの先生をおいていくんですか。それとも、外に出てから校長室に入っていくんですか。そういうふうな作りなんですよ。あれは、ちょっと——実はですね、育友会の会長がおりまして、ここに。育友会の会長が御船が丘小学校のことは言うたらいかんばい、という話だったんですけれども、実はそういうふうには不便なところなんですよ。

あれはですね、やっぱ金かけてでも何とかせんばいかなと思えますけれども、教育長いかがですか。

○議長（杉原豊喜君）

浦郷教育長

○浦郷教育長〔登壇〕

ご存知のとおり、もう今、非常に教育関係の予算いただいております。とにかく安全安心を第一にやっております。そこはもう優先して、もし可能であればですね、改修もお願いしたいというふうに思っております。

○議長（杉原豊喜君）

19番山口昌宏議員

○19番（山口昌宏君）〔登壇〕

あのですよ、またあとで聞きますけれども、今度ですね、タブレット。これ今回、予算議案で載っておりますので、事前審査にならんくらいにいきたいと思います。もし事前審査にかかるようであればストップとっていただければやめますので。というのはですね、私が考えるにですよ、教育長さん。私が考えるに、タブレットを子どもたち全部に配付しますよ。配布はします。しかし、そこで問題点がいくらか出てくるわけですよ。例えば、家に持って

帰る物なのか、あるいは学校で充電をして、そこで置いて帰る物なのか。それと、もしタブレットが故障したら、故障の具合にもよるでしょうけれども、個人の負担。あるいはその負担割合。そういうふうな検討をされているのかというのが1つと。

それと恐らく、今回のその予算議案の中で、その審議はされるでしょうけれども、やっぱり学校の先生たちが、先に勉強ばしてもらわないと今の子どもたちちゅうのはですね、誰やったですかね。3歳の子どものスマホでしょっしょっしょってしてからゲームする。そういうふうな時代ですから、もう、我々年齢になれば頭も硬いですし、髪の毛もなかですけども。

そういうふうな中ですよ、どういうふうな指導方法を考えておられるのかお尋ねをします。

○議長（杉原豊喜君）

古賀教育部長

○古賀教育部長〔登壇〕

タブレットにつきましては、持ち帰りていくという方向で今検討しているところでございます。それから、タブレットを全員に配付をいたしますと故障等ですね、あるいは落として壊れるというようなことも想定をされますので、こういったところにつきましては、現在どういった形で補償ができるのかということで、現在メーカーのほうでもですね、無償のサービスもございますし、そのほか有償のサービスもございます。そういったものを含めて検討してまいりたい、というふうに考えております。

○議長（杉原豊喜君）

19番山口昌宏議員

○19番（山口昌宏君）〔登壇〕

どういうふうにするか、検討はしてまいりますと。だいたい昔からずっと聞いて聞かせよとばってんが、検討するちゅうことは、しないちゅうことなんですよ。ちゃんとした、その、答えをくださいよ。

というのはね、やっぱり子育て世代というのは、意外と金がいるわけですね。この間の新聞に載ってたように、高校生に対する有償の、5万円やったですかね。そういう、けんけんがくがくああいうわけでしょ。それに、5万円で有償で全部持ってください。それ修繕賃を含めて全部持ってくださいでしょ。それ、武雄市は、無償で配付しますがけれども、要するに故障等々、無償で修理する部分もあるといいながら有償でもありますよっていう話でしょ。その有償の割合だって、どっからどこまでか、その割合がするのかっていうと、もう、これぴしゃっとしたとこ出しとかんことにはですね、子どもたちの親としてはやっぱり物すごく気になるところじゃないかと思うんですけども、いかがですか。

○議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

このタブレットの件につきましては、年内に、まずですね、どういうタブレットを選ぶかということと、それに合わせてどういうアプリケーションがふさわしいかということ。だからハード、ソフト、両面に関しての委員会をつくって、その中で有識者を交えて議論をした上で決定をしたいということを思っております。

それはメーカーの皆さんたちからするとプロポーザルに多分なると思いますがけれども、そういった中で決めていきたい。その中で、メーカーさんが多分ですね、さっき議員がおっしゃったような、その保証プロテクトに関してはこういうふうにするということも含めですね、それは中に入れようと思つてね。

要するに提案の中に入れておこうと思つて、その中から総合評価をした上で決めていきたい。それで私自信の考えは、やっぱりですね、特に小学校の低学年で何があるかわかりません。タブレットに関しては、落としてひび割れたり。それを保護者の負担にするっていうのは、私は反対です。ですので、これも含めてですね、今いろんな保険とか保障とかっていうのも、教育委員会が今検討——検討つて、せんつて意味じゃないですよ。見てもらっていますので、それも含めて最終的に決定をして。これは予算を伴う話になりますので、これはよく議会と相談をさせていただいて、本当に子どもたちにとって、保護者にとって、「この選択が一番良かったよね」という方向にぜひ持っていきたいと、このように考えております。

○議長（杉原豊喜君）

19 番山口昌宏議員

○19 番（山口昌宏君）〔登壇〕

いずれにしてもですよ、金額的に大きいですからね。そういうことで、家庭での負担をなるべく減らすような考え方を持つて、これは進めてもらいたいと思っております。

教育問題を質問するときにはですね、教育部長の顔が見えんから、ちょっとこう、どこにおるかなと思つて、こうして見らんばなんとですけど、なかなか難しいですね。これをよければいかんごと。

次にいきたいと思つていますが、学校のカーペット。じゅうたんのことについてちょっとお尋ねをしていきたいと思つて。というのはですね、それこそさっき御船が丘小学校のこと言うぎいかなばいって話でしたけれども、これは御船が丘小学校のですね、校長先生ですね、ぜひ言うてください、と言わしたです。というのはですね、その校長室の話じゃないんです。校長室はもう、校長先生がダニに食われようが何しようがですね、子どもが食われん限り大丈夫ですから。というのはですね、御船が丘小学校も、図書室とそれから、何ていうんですかね、多目的ホールかな。あそこのところにカーペットがしてあるんですよ。そいぎですね、あそこのカーペットは、御船が丘の場合は、スリッパば脱いであがっていくと。そして掃除すつときには、掃除機で掃除ばせんばならん。こいば木でも

らったら、ちょっとよかいですけれどねって。というのはですね、バルサンばたかんまん。それをしとかんぎですね、ダニがわいて、子どもたちがですね、どがんもされんと。今度は山内の山内東小学校、山内の東小学校の場合は上履きを履いて、そこに行くと。上履き履いてその図書室に行って、そこで本読むときに寝転がってみたりする。そこにカーペットをしてある。これはなんやって。何のためのカーペットやろかということですね、教育長さんどうですかね。

○議長（杉原豊喜君）

古賀教育部長

○古賀教育部長〔登壇〕

御指摘のとおり、学校につきましては床につきましては、カーペットをしてあるところが多数ございます。

カーペットが全然ないという学校につきましては、4つございまして、朝日小学校、東川登小学校、武雄小学校、西川登小学校と、あとの学校につきましては、全部というわけではございませんけれども、学校の1部について、カーペットを敷いてあるという状況でございます。

特に多いのは、放送室とかですね。こういったところについては、音の反響とか、こういったものを防ぐためにカーペットを敷いてある。あるいは建築年度がですね、昭和から平成にかけてというところで、今おっしゃられました、御船が丘小学校等々でございますけれども、校長室にもですね、応接等の意味合いでカーペットを敷いてあるというところも、実は4校程度ございます。

現在では、木造で床が木になっているところですね、につきましては当然カーペットを敷いてないわけでございますけれども、状況としては多数の学校でカーペットが敷いてあります。

これにつきましてはダニ等がですね、付着をして衛生面で問題があるところがございまして、毎年ですね、検査をいたしております。ダニの検査をいたしております、その検査の結果、掃除をしなければならないというところにつきましては、掃除もいたしておるところでございます。以上です。

○議長（杉原豊喜君）

19番山口昌宏議員

○19番（山口昌宏君）〔登壇〕

そういうふうな答弁ですっけん、言わんばならんごとなるとでしようが。例えばですよ、御船が丘小学校の校長室の話ですよ、応接室を兼ねているから、カーペットをせんばいかんって。校長室に応接室兼ねとって、なしカーペットばせばらん理由の出てくるですか。

あえて言わせてもらえばですよ、御船が丘小学校の校長室ちゅうのは、スリッパ脱いで

いかばなんですよ。子どもたちのね、親のおるとですよ。極端な言い方すれば、父ちゃんがそこにおるのに上履きを脱いで、父ちゃん助けてよって、何で行かんばらんとですか。理由を教えてください。

○議長（杉原豊喜君）

古賀教育部長

○古賀教育部長〔登壇〕

御船が丘小学校につきましては、校長室もカーペットを敷いてあるわけですがけれども、さきほど申し上げましたように、当時の時代背景でそういうふうになっているかと理解しておりますけれども、カーペットの下はコンクリートっていうことになっておりますので、コンクリートの上にはなんらかのですね、床材を敷くということになるろうかと思えますけれども、これがカーペットということになっているわけです。

それから、大事に使っていくということもございまして、これまでですね、スリッパを脱いでということとされていたわけですがけれども、現在ではスリッパは脱がないでもいいというふうになっているそうです。

○議長（杉原豊喜君）

19番山口昌宏議員

○19番（山口昌宏君）〔登壇〕

あのですね、現在では、そのスリッパを脱がないでもいいって。

私がですね、行ったときに、校長室に入ろうとしたぎ、スリッパ脱いでくださいって。それスリッパ脱いで入ったとですよ。もう、こういうふうな言い方をすればおかしいですけど、頭に来てですね、なんでここにスリッパ脱いで行かんまなとかいて。

それで次の日に、校長先生ちょっと来てよって。校長先生と学校教育課長さんもお願したとかな、来てくださいと。理由ば言うてくださいって、スリッパを脱がばらん理由。理由はなかですもんねって。理由のなかならばスリッパはいてよかろうもんと。

いずれにしてもですね、下の床が木やなかけんが、あれを貼っとうって。貼っとうないば、今度木にしてくださいよ。

というのはね、これが強くお願いがあったのは、例えば御船が丘小学校の図書館であり、多目的室であり、特に山内の東小学校の廊下。あれはですね、なんであそこにカーペットば敷いてあるかという、敷いてあるか。

佐賀弁ではなくて標準語でいきたいと思います。

なんで、あそこに敷いてあるかというとですね、あれは雨が降ったときに水が浮くんですね、床に水が。だから滑るんです。滑るからあれは滑り止めでカーペットをしてある。それはさっき部長からも話がありましたけれども、東川登にしても西川登にしても、今回の改修で全部木に。それでもう、拭かなくてもいいようになったわけですね。

だからそういうふうなことであれば、山内の東小学校だって、床は木にするべきじゃないかと思うんですよね。校長室も山内の東小学校全部カーペットば敷いてあるとですよ。そのカーペットがいかにとは言わんけれども、物凄くおかしかですよ、山内の東の廊下のカーペット。気を付けて見てくださいよ。

そういうふうな面ですよ、市長もくしくもいわれたように、今回は、今回って3期目もしいくのであればですね、その教育問題に力を入れたいという話なんですね。そしたら教育問題に力を入れたいということであればですね、教育予算としてそれなりについてくると思うんですね。教育長いかがですか。

○議長（杉原豊喜君）

浦郷教育長

○浦郷教育長〔登壇〕

先ほど言いましたように、大変な予算を教育にいただいているというのが前提でございます。

それから、2つ目としましては、確かに木のほうが、歩いてみたらわかりますが、1日歩けばですね、コンクリートの床とカーペットだったにしてもですね、木造のところは全然違うわけですね、疲れが違うわけですね。子どものケガにしてもそうであります。

ただ、確かに今部長申しましたように、その時期においてはですね、最善のものをもっと作られたと思うんですけれどもそういう状況でございます。

従いまして、可能な範囲でお願いをしていきたいと思っておりますし、今後そういう場所についてはですね、再度確認をして、できるところからお願いをしていきたいというふうに思います。

○議長（杉原豊喜君）

19番山口昌宏議員

○19番（山口昌宏君）〔登壇〕

いずれにしても、校数の多かけんですね、学校数の多かけんが、いっぺんにはできんと思うんです。いっぺんにはできんと思うんですけれども、順をおってでもですね、やっぱりしていただかないことには。

まずして、1番してもらいたいのはですね、山内の東小学校ば見よってですね、廊下ば、誰でも歩いたことなかでしょ。あの廊下のあのカーペットが敷いてあるとばってん、下駄箱付近なんかもうこれはどうなるかというごとうですよ。校長先生もですね、その辺は力入れて言うtotteくださって。

幸いにしてですね、教育長は、山内からばいて。ついでに、議長さんまで山内からて言んさいた。そんくらいにしとって、そがん立派な方ばかりお見えのですね、山内の東小学校がそういうふうなんですよ。あえて言えば、まずよそが先かなということで、教育長さんも含

めて議長さんも考えながらやっておられるのかなということで思っておりますけれども、いづれにしても、できるところから間違いなくやってください。そして、したところについては必ず報告をしていただきたいと思います。

最後に市長に、先程来、3回目どがんすつですか。という話をしましたけれども、お聞きをしましたけれども、最後にですね、ぴしゃっと3期目は、ずっばい、出んばい、どっちかい、というぴしゃっとしたところをお尋ねをしたいと思います。

○議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

3期目、出馬させていただきたいと思います。これは決意を込めて、この場で申し上げたいと思っております。

先ほど私は、教育あるいは福祉について申し上げましたけれども、目の前に武雄が今前進をしています。

例えば北方のバイパスであったりとか、例えば水害の常襲地域である橘町の——ここ3年はね、大きな洪水はなかったんですけれども、例えば調整池の問題であるとか、さまざまな大型のインフラ、そして今、今度は庁舎の問題にもなっております。

そういった中で今、問題、課題をありますけれども、それを3期目に向けて、皆さんたちと一緒に解決をしていく。そして、とりもなおさず、それを実現していくんだということで、皆さんたちとともに武雄市政を担ってまいりたいと、このように決意をしております。私自身まだまだ未熟でありますけれども、誠心誠意、もし市民の多くの皆さんたちから信任をいただけますならば、今以上に頑張ってみりたいと、このように申し上げたいと思います。よろしく申し上げます。

○議長（杉原豊喜君）

19番山口昌宏議員

○19番（山口昌宏君）〔登壇〕

今、市長の出馬する、という決意といいますか、その表明をされましたけれども、そこで、ふと思ったんですよ。私のところの近所の奥さんがですね、1日と15日にですね、必ず榊を持ってきてくださると。榊を、神さんにあげてくださいって。市長が足ば外さんごと、はめば外さんごと。よう、神さんに参ってくんさあごとというてですね、榊ば月に2回必ず持ってきて、市長の今後をですね、見守ってくんさいのうと。そして、武雄市をもっともって住みよい町にしてくんさいのうということで持ってきてもらっておりますけれども、そういうふうなを含めてですね、市民の期待っていうのは大だと思うんですね。

そういう中で、市長含めて我々議員も今から先、気を引き締めて頑張っていかなければいけないのかなと思っておりますので、今後ともお互いに頑張っていきたいと思います。これ

で終わります。

○議長（杉原豊喜君）

以上で、19番山口昌宏議員の質問を終了させていただきます。

ここで、モニター準備のため、10分程度休憩をいたします。